

台湾におけるコンピテンシー教育の授業開発 —国語教材「楊修猜字」を例にして—

台北市立大学・学生 何 洲全
広島大学大学院・院生 赫 至琪

キーワード：台湾、コンピテンシー教育、小学校

1、問題の所在と研究の目的

ここ数年、台湾はコンピテンシー教育を実施している。コンピテンシー教育は児童生徒が知識を運用する力と自主学習能力を重視している。コンピテンシー教育を実践している授業では、教師が主導するような伝統的な授業と違い、学習者が授業の主体になる。このような授業の中で、言語活動を通して、学習者が自分自身で知識・技能・理論を身に付け、学習を進めている。このように、コンピテンシー教育を目指し、教師側は授業内容が学習者の応用と問題解決の力を鍛えられるように、一番適切な授業内容と教え方を長年挑戦している。

しかし、今までコンピテンシー教育の授業実践は方法が単一であり、総合的ではないなどの課題が残っていると考えられる。今まで行われていた授業方法と言語活動を見ると、まだ詰め込み型教育であり、生徒は受動的に受けることが多く、自発的な学習と創造力が不足している。また、多くの科目の教育内容は総合性が欠けている。例えば、国語科の授業では生活と離れている文学知識しか教えられていないことが見られる。このように、生徒は知識の表面的な理解に陥りがちで、知識の総合的な理解と応用力が不足になる。

そこで、本稿では、以上のような課題を解決するように目指しながら、小学校国語における「楊修猜字」の授業をコンピテンシー教育との関連性を探究し、効果的な教育方法を提案することを目的とする。

2、研究の方法

まず、「課程綱領」（日本の「学習指導要領」と相当する）を使い、コンピテンシー教育の目標を明確にし、それに基づき、単元指導計画を完成する。

次に、筆者が所属した大学の附属小学校で3年生28名を対象にコンピテンシー教育を中心にした授業の実践を行う。特に、第五次の実践授業¹を考察する。

3、教材観

「楊修猜字（楊修という人が漢字を読み解く）」という物語は『世説新語』から取り上げられ、現代文として改編された文章である。現在は南一出版社の小学校三年生の教材文である。

「楊修猜字」の出典である『世説新語』は六朝時代の南朝宋の劉義慶が後漢末から東晋までの著名人の逸話を集めた文言小説（古典）である。その中に古代知識人の才能や知恵を示すだけでなく、当時の社会状況や人々の気持ちを記述し、中国の歴史と文化に深い影響を与える重要な文献である（于恵、2011）。

「楊修猜字」において、主人公楊修は優れた語学能力と叡智に長けている。彼の才能は当時高く評価されたため、曹操から賞賛を得ていた。物語のなかに、曹操は部下の才能を試すために、「闊」と「合」という二つの漢字を別々に書き、伝えたいことを「字謎（漢字を用いて作った謎）」で伝えようとした。曹操は自分の意図を理解する人を期待していた。楊修は字謎を見て、字形や事々の繋がり観察し、曹操の意図をすぐ推測できた。曹操は楊修の素晴らしさに驚き、楊修を賞賛した。

本稿は「楊修猜字」を取り扱う理由は、この物語は主人公楊修の才能と知恵を示すだけでなく、言語の元である文字の面白さや美しさが伝えられており、うまく使えば思考力育成の教材になりえるからである。筆者はこの教材とコンピテンシー教育を繋げ、漢字文字特有な面白さから、学生の興味を引き出し、読む力と語学の素養を高めることを目指している。

このような目標を持ち、本稿では単元指導案を提示し、そして実践した授業を踏まえて、台湾で今行われているコンピテンシー教育の実態と授業開発についての理解や可能性を深めたいと思う。

4、単元計画

表1：「楊修猜字」の単元計画

指導者	何洲全	対象	某大学附属小学校第三学年
学年	三年	所要時間	5回の授業、約200分
単元名	第二単元 「語文 ² 小小兵」 第四の文章 「楊修猜字」		
学習目標	学習表現 ⁴	<p>「十二年国民基本教育課程綱要 国民中小学及び普通型高等学校 語文領域—国語文」³により、この授業は以下のことを目指している。</p> <p>2-Ⅱ-2 考えを適切な言葉と正しい文法で表現する。</p> <p>4-Ⅱ-2 異なる漢字を対照しながら語彙量を増やす。</p> <p>4-Ⅱ-4 形、発音が似ている言葉を区別して正しく使う。</p> <p>4-Ⅱ-5 文字の意味に基づき、単語の意味を推測する。</p> <p>5-Ⅱ-3 発達段階に合うテキストを理解する。</p> <p>5-Ⅱ-6 発達段階に合う要約策略を使って要約する。</p> <p>5-Ⅱ-7 テキストにおける作者の観点を把握した上で、テキストから作者の観点を支持する根拠を見つける。</p> <p>5-Ⅱ-9 自分の読解力を知り、読書策略を調整する。</p>	
	学習内容 ⁵	<p>「Ac-Ⅱ-2」 各種の基本的な文型。</p> <p>「Ad-Ⅱ-2」 篇章の要約、主題、簡単な構造。</p> <p>「Ad-Ⅱ-3」 物語、童話、現代の散文。</p>	
	核心素養 ⁶	<p>國-E-A2 国語文の学習を通じて、テキストの要点を把握し、学習戦略と問題解決戦略を開発し、論理的思考に触れ、経験と実践を通じて日常生活の問題に対応する。</p>	
教材		南一書局出版社第六冊 「楊修猜字」	
学生の学習経験 (児童観)		<p>1、文種について</p> <p>物語文の構造（背景、起因、経過、結果）が明確である。</p> <p>物語文の構造と内容要点に基づき、意味段落を区別できる。</p> <p>2、学習経験について</p> <p>部首や文字の一部を活用して語彙を覚えることができる。</p> <p>ある程度の読解力を有している。</p>	

5、各次の展開

表2：各次の展開

言語活動と実行方法	所要時間	補足説明
<p>第一次</p> <p>学習目標：</p> <p>1、文章の「背景、原因、経過、結果」の知識を使い、文をまとめる</p> <p>2、文章の内容に基づき、質問に答える</p> <p>一、導入</p>		

1、教科書の第二部分を一緒に見て、これから行う言語活動と学習内容を一緒に考える	5分	美読： 正しく文字漏れなく、イントネーションと感情付きで、テンポよく読むこと。	
2、タイトルを分析し、得られる情報を整理しよう	10分		
二、展開	10分		
1、文を朗読する。 (1) 生徒が文章を朗読する (2) 教師が生徒の朗読に評価し、きれいに朗読するための注意点を示し、参考になる手本も見せる (3) 朗読のテクニックを知った後、生徒にもう一度読ませる。グループに分け、生徒が互いの朗読を聞いて、それぞれ朗読の違いに気づかせる	10分		
2、文章を簡単に理解しよう 以下の問題を考えた後、生徒たちにグループで議論し、物語のあらすじを発表させる (1) 曹操はこの物語における身分は何か？ (2) 楊修はどんなところが長けているか？ (3) 曹操は新しい門が建てられている最中、どんなことをしたか？ (4) 作業員たちが門の上に残された「活」という文字に困惑していたとき、だれに助けを求めたか？ (5) 曹操がもらった乳酪（チーズ）にどんな文字は残したか？ (6) 楊修はどこから曹操の意図を知ったか？ (7) 曹操は楊修が自分の意図を推測できたことにどう思っていたか、またどんな反応をしたか？	10分	予測する生徒の回答： 1. 宰相 2. 才智が人並み以上、反応が早い 3. 新しく建てられていた門の前で一言もなくて「活」という字だけ残して去った 4. 楊修 5. 合 6. 「合」は人一口という構成でできた文字から 7. 楊修に褒め言葉を与えた	
3、文の構造を分析する (1) 生徒にグループで話し合わせ、文章を三つの部分（背景、物語一、物語二）に分けさせ、その分け方の根拠も聞く (2) 分けられた三つの部分に基づき、物語を原因、経過、結果にさらに細かく分けさせる (3) 各グループがホワイトボードを使ってまとめる。その後黒板に貼りつけ、クラス全員が議論する (4) 物語の内容を知った後、今回の文章はどんな文体なのかを考えさせ、教科書に書かせる	10分		
三、まとめ 1、今日の授業で学んだことをもう一度まとめる（文章の構成、内容と文体） 2、教師が言語活動を評価する	5分		
第二次 学習目標： 3、削り方法（いらないことを削除し、重要な部分だけを残す。原語：刪去法）を使って段落ごとのあらすじを整理する	5分	物語の部分	あらすじ
一、導入 前の授業で文章をどう分けていたかを思い出させる		背景	
二、展開		原因一	
1、各段落のあらすじを削り方法で整理しよう (1) あらすじを整理するために、教師は大事な部分だけ残すという方法を提案する。物語においてどんな部分が大事なのかを考えさせる		経過一	
	20分	結果一	
		原因二	
		経過二	
		結果二	

<p>(2) グループで話し合わせ、自分で考えている重要な部分を右側のようなグラフに書かせ、グループごとの成果を発表する。</p> <p>2、グラスで各グループの成果を一緒に見て、考える</p> <p>三、まとめ</p> <p>各段落のあらすじをノートに書かせ、提出する</p>	15 分	
<p>第三次</p> <p>学習目標：</p> <p>4、各段落のあらすじをさらに簡略にし、物語のあらすじをまとめる</p> <p>5、過去で学んだ方法を使い、文の中でわからないことばの意味を推測する</p> <p>6、物語と関わる質問の回答を通して物語に対する理解を深める</p> <p>一、導入</p> <p>1、前回まとめた各段落のあらすじを朗読させる</p> <p>二、展開</p> <p>1、文章のあらすじを考える</p> <p>教師は段落のあらすじから文章のあらすじにする手本を紹介する</p> <p>2、過去で学んだ方法を思い出す</p> <p>(1) 学んだ方法を復習する</p> <p>(2) 生徒に、この物語において分からなかった部分があるかどうかを質問する</p> <p>3、テキスト内容を深める</p> <p>以下の質問を一緒に考える</p> <p>(1) 楊修のどんなところが人に素晴らしいと思わせるか？</p> <p>(2) この二つの事件の中で、作者はどんな言葉を使って楊修の話、表情や動きを描写し、彼の性格を強調したのか？</p> <p>(3) 物語において、楊修と曹操のやりとりとほかの人と曹操とのやりとりはどう違うか？</p> <p>(4) この物語から、曹操はどんな人だと思うか？</p> <p>(5) 自分が曹操だったら、楊修のような部下にどう思うか？</p> <p>三、まとめ</p> <p>黒板にグループの討論とクラスでの話し合いをまとめ、議論する</p>	<p>5 分</p> <p>10 分</p> <p>10 分</p> <p>10 分</p> <p>5 分</p>	<p>(二、1、)</p> <p>第一歩：段落のあらすじをそのまま繋げ、一つの文章にする</p> <p>第二歩：できた文を削り方法で削除したり、接続語を使ったりするなど、文章を流暢にする</p> <p>第三歩：文章のあらすじが完成する</p> <p>(二、3、)</p> <p>全体かグループかで話し合う</p> <p>ノートに書いて提出する</p>
<p>第四次</p> <p>学習目標：</p> <p>7、熟語の意味と使い方を理解する</p> <p>8、言葉の構成やその中の巧みと面白さを理解する</p> <p>一、導入</p> <p>教師が範読した後、生徒に朗読させる</p> <p>二、展開</p> <p>1、物語における多音字と物語に関連する熟語を提示する</p> <p>2、文字の特徴を考える</p> <p>(1) 文字の醍醐味を考えさせる</p> <p>・門+活 が 闊 になる</p> <p>・人+一+口 が 合 になる</p>	<p>5 分</p> <p>25 分</p>	

<p>(2) 字謎（漢字を用いて作った謎）を考えさせる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒に自分が知っている字謎を発表させ、文字の構成に興味を持たせる ・教科書第49ページの例をみてその答えを考えさせ、こういう文字の構成でできた字謎に知らせる。 <p>a. 太陽が西側から照らす：晒 b. 田んぼに心を育てる：思 c. 目が木を見つめている：相</p> <p>三、まとめ 今回の授業内容をまとめる</p>	10 分	
<p>第五次 学習目標：</p> <p>10、学んだ文字に基づき、創造力を使って字謎を作る</p> <p>一、導入</p> <p>1、字謎の定義を復習する</p> <p>2、今回の授業内容は字謎を作ることを生徒たちと共有する</p> <p>二、展開</p> <p>1、教師が幾つかの字謎を挙げる</p> <p>2、謎ブックあるいは謎カードを作る</p> <p>(1) 「辞書とか使っても良い」と伝え、生徒に今まで学んだ文字や字謎に基づき、自分の字謎を作らせ、イベントを行う</p> <p>(2) 字謎の作り方を示す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・好きな文字を決める ・この文字を幾つのパートに崩してみる（例えば「旦」を「日」と「一」に崩す） ・想像力を使い、この文字のパートをもとに、一つの短文にする（「旦」：地面から日が昇る） ・時間内に多ければ多いほど作り出すことが望まれる <p>3、字謎大会を行う</p> <p>(1) 自分の謎カードあるいは謎ブックなどの作品を持って戦う</p> <p>(2) クラスでバトル相手を探し、学生番号で先攻・後攻決め、互いに字謎を出す</p> <p>(3) 当たれば、相手に自分の作品の後ろに学籍番号書いてもらう。6つ（場合によって変えるかもしれない）を手に入れたら先生に伝える。先着6名（場合によって変えるかもしれない）に、グループ点数か賞品をあげる</p> <p>(4) 90秒内で字謎を解けないなら失敗とみなす</p> <p>(5) 何よりルールを守ってイベントに参加することを強調する</p> <p>三、まとめ</p> <p>1、教師が今日のイベントについて評価し、まとめる</p> <p>2、自分が作った字謎の中で一番いいと思っている字謎を選び、クラスの後ろの掲示版に展示する</p> <p>3、生徒一人一人が展示する字謎の中で一番いいものにラベルを付け、一週間後、字謎最優秀賞を決める</p>	<p>3 分</p> <p>31 分</p> <p>15 分</p> <p>10 分</p>	<p>(1) 七十二時間 (晶)</p> <p>(2) 心はまるで刺されたように (必)</p> <p>(3) 日は木に落ちていた (東)</p> <p>順調に進めるために、教師がルールを強調する必要がある</p>

6、考察

6、1 実践とコンピテンシー教育の繋がり

この実践はどのようにコンピテンシー教育と関連

するのかについて、表3ではコンピテンシー教育の要点とそれと対応する言語活動を示している。

表3：授業実践とコンピテンシー教育との関連

コンピテンシー教育の要点	授業実践でコンピテンシー教育に向かう言語活動
テキストの要点を把握する	<p>内容面：</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 第一次の質問コーナーでは物語から必要な情報を探し出す ● 第二次の要約活動では全文を通して、重要などころを見出し、文章のあらすじを書く ● 第三次の討論活動で登場人物の性格、立場、感情を理解し、まとめる <p>広がり：</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 第五次の字謎作りでは文字の面白さを知り、テキストの重点を把握する
学習戦略と問題解決戦略を開発する	<ul style="list-style-type: none"> ● 第二次では文章のあらすじを書くために、削る方法を身につける ● 過去で学んだ方法を使い、文の中でわからないことばの意味を推測する ● 五回の授業を通じて、チームワークの重要性を感じさせる
論理的思考に触れる	<ul style="list-style-type: none"> ● 第二次では物語の展開が知ったうえで、各段落の核心である部分を考え、論理的な思考であらすじを書く ● 第三次では作者が登場人物の行為と態度を表現するために使った言葉と登場人物互いのやりとりを注目し、それらを根拠として登場人物の性格を考える
経験と実践を通じて日常生活の問題に対応する	<ul style="list-style-type: none"> ● 第五次は実践のまとめりとして、国語科授業で学んだ知識を使い、字謎を作ることを通じて、学んだ知識を活かし、文章との繋がりを深め、生活における必要な表現力と創造力を鍛える ● 第五次で作品を展示し、他者意識を持ち、鑑賞力を鍛える

「国語文の学習を通じて、テキストの要点を把握し、学習戦略と問題解決戦略を開発し、論理的思考に触れ、経験と実践を通じて日常生活の問題に対応する」というコンピテンシー教育の目標に向けて、筆者は「要約活動」「討論活動」「字謎作り」などの言語活動をもうけた。

前三回の授業では生徒が物語を理解することを目指している。第四次の授業では字謎について必要な知識を備え、第五次では第四次のもとに、作品を完成し展示することを望まれている。

特に、第五次の実践は最もコンピテンシー教育の要点である日常生活で活かすことと繋がり、その為、次には具体的に第五次の実践の分析を行なった。

6、2 第5次の実践の考察

生徒たちは前四回の授業を通じて、物語の内容を明確に知り、文章の構成も理解できた。その上で第五次の授業はテキスト内容から広がり、生徒に字謎

の創作を行わせた。字謎づくりという言語活動を行う理由はまず、「楊修猜字」は字謎をめぐって展開する物語である。また、字謎を創作することで、生徒たちは漢字の理解と認識を深めるだけでなく、思考・分析や問題解決の能力も育成できる。

また、三年生を対象とする授業では、辞書を使って知らない単語を調べることが望まれている。そのために、この授業では辞書を使い、字謎にする文字を見つけ、字謎創作を始めることを目指している。しかし、創作の途中、「想像力を使い、この文字のパートをもとに、一つの短文にする」とき、言葉選びにかなり時間をかけた生徒は多かった。字謎にする文字はすでに見つけ、文字のパーツも把握できたのに、字謎の一文にするとき、「美しさ、きれいな感じが足りない」と戸惑い、進まなかったことがあった。その時、筆者が生徒の考えを聞き、生徒の自分なりの答えを励ました。要するに、第五次の実践において、筆者はサポーターとして生徒たちの様子を観察

し、生徒が自分で考えることを大切にしながら、必要な時に手助けをした。

言語活動の後、生徒の創作を掲示板に展示し、素晴らしい字謎に投票することがあり、筆者はこの活動から二点を目指している。生徒が自信を持たせることがまず一つである。同級生に票を入れられたら、創作者は嬉しく、自信を持つことができると思う。もう一つは、他者意識を育てることである。他者の作品に興味を持ち、評価することから、他人の考えを初歩的に理解することができると考えられる。

このように第五次の実践を通じて、字謎づくりという言語活動から、学生が自分の経験と身の回りのことを素材にしながら、教科書の文章との繋がりも深めることができた。授業後、生徒たちのフィードバックには、「面白かった」「満足した」という意見が多かった。また、授業外でも字謎に興味を持っている生徒が新しい字謎を作っていることが見られる。

7、成果と展望

今回の実践、特に第五次の実践では、生徒が知識を使い、自分で創作することに焦点を当てた。字謎作りなどの言語活動を通じて、生徒たちは単なる授業を聞く「客」から、自分自身で学び、成長する「主」になる。また、コンピテンシー教育が重視する知識を生活に応用する方面について、第五次の実践において、筆者は物語から広がり、字謎を作ることで、身近な文字と繋がろうとしていた。

しかし、この実践において、「三国演義の中で、楊修は曹操の意図に当てたから曹操に殺された」とある生徒の発言から、授業中には一時騒いでいた。この様子を見て、筆者は楊修が殺された事件を簡単に説明した後、「あなたはなぜ曹操が楊修を殺したと思うのか？」と「あなただったら、曹操と同じように楊修を殺すか、それとも違う行動を取るか？」を聞き、クラスでこの二つの議論を短く行なった。しかし、そのとき時間の関係で、この議論は広げることができず、「謎」として残された。振り返って見ると、この話題は重要であり、深めていくことで生徒に新しい見方を生み出す可能性があると考えている。

このように、コンピテンシー教育が重視する生活に応用することと物語の背景や文学面を深めることと矛盾しているようにみえ、両者のバランスをどの

ように取ればいいのかという課題が残されている。今後は、コンピテンシー教育の特徴をさらに明確にし、よりよい授業方法を実践に活かしたい。

【注】

¹ この授業は総計5回を行った。ここでは第5回目の授業を指している。

² ここの「語文」は国語と相当する。

³ 「十二年国民基本教育課程綱要 国民中小学及び普通型高等学校 語文領域—国語文」は日本の「学習指導要領 国語編」と相当する。

⁴ 「十二年国民基本教育課程綱要 国民中小学及び普通型高等学校 語文領域—国語文」により、学習目標（原語：学習重点）は「学習表現」と「学習内容」両方がある。「学習表現」は「聞くこと」「話すこと」「シンボルの運用」「識字と写字」「読むこと」「書くこと」6の方面がある。

⁵ 「学習内容」は「文字文章（原語：文字篇章）」「文章表現（原語：文本表述）」「文化精神（原語：文化内涵）」三つの方面がある。

⁶ 核心素養はキー・コンピテンシーである。

【引用参考文献】

中国語文獻

陳麗卿、王薇棠、吳司宇、陳明蕾（2015）「閱讀理解策略融入社會學習領域之有效教學研究：以新竹縣國小三年級為例」『新竹縣教育研究集刊』第十五期、1-30.

教育部（2018）「十二年国民基本教育課程綱要 国民中小学及普通型高級中等學校 語文領域-国語文」

https://www.k12ea.gov.tw/files/class_schema/課綱/3-國語文/3-1/十二年國民基本教育課程綱要國民中小學暨普通型高級中等學校語文領域-國語文.pdf
（2023年3月31日確認）

劉芯妤（2020）「素養導向學習單與國中國文課程-以素養導向評量增進九年級閱讀理解之行動研究」淡江大學課程與教學研究所修士論文、5-17.

于惠（2011）「瑰麗奇譚的人物風景讀享《世說新語》」『全國新書資訊月刊』第8号、21-25.